京都大学教育研究振興財団助成事業
成　果　報　告　書

2019年9月16日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会 長　藤　　洋 作　様

所属部局・研究科　人間・環境学研究科共生人間学専攻

職 名・学 年　博士後期課程二回

氏　　名　平野 あかり

助成の種類	**2019年度　・　国際研究集会発表助成**	
研究集会名	第8回TBLT国際学会	
発表形式	☐ 招待　・　☐ 口頭　・　☑ ポスター　・　☐ その他(	
発表題目	Thinking Abstract: Collaborative Task-based Learning of EAP Writing Skills	
開催場所	カールトン大学、カナダ	
渡航期間	2019年8月18日～2019年8月23日	
成果の概要	**タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下さい。「成果の概要」以外に添付する資料　☐ 無　☑ 有(発表用ポスター)**	
会計報告	交付を受けた助成金額	250,000円
	使用した助成金額	250,000円
	返納すべき助成金額	0円
	助成金の使途内訳	航空賃: 187,800円
		宿泊費: 20,900円
		学会参加登録料: 約20,300円 (248.72カナダドル)
		交通費: 5,000円
		滞在費: 16,000円
当財団の助成について	(今回の助成に対する感想、今後の助成に望むこと等お書き下さい。助成事業の参考にさせていただきます。)	

成果の概要

人間環境学研究科・博士課程二回・平野あかり

【発表の概要】

本研究では、クラウドソーシングを活用し、学習者が教材開発活動に参与できるような仕組みを備えた、オンライン教材の効果を検証した。本教材は、国内の大学において、アカデミック・ライティングの授業を受講する学習者を対象に、論文の要旨の書き方を指導する目的で開発した。本教材の特徴は、学習者が自ら要旨の見本となる例を探し、オンライン上で共有することで、自らが提供するコンテンツを教材として利用し、各学習者の興味や専門、大学での学習に応じた教材の開発に貢献することが可能である点である。また、ライティングやそれに対するフィードバック、ディスカッションのコメントを公開し、共有することで、議論や添削の過程において協働的活動の利点を活かすことができる。本教材の利用後、学習者の動機付け面やアカデミック・ライティング技能に関する自己評価において肯定的な反応がみられたことから、学習者の動機付け面、知識と理解、要旨作成の能力における効果が示唆された。また、学習過程の観察を通して、開始前の知識とライティングの成果物の検証から、要旨作成に関する技能を習得できたことが示された。また、従来の教材よりも学習者の自律的な活動や他者とのインタラクションを促すことができるため、それによる学習者の動機付け面への好ましい影響が示された。

調査から明らかになった本教材の利点は、大きく三点に分けることができる。まず、(1)学習者が自ら選択したオーセンティックなサンプルを用いることで、学習者の参与を促し、動機付け面に好ましい影響を与えることができた点、次に、(2)全学習者が提供したサンプルに他の学習者がアクセス可能な状況をつくることで、多様なサンプルを参照することができ、要旨の構造や特徴に対する理解を深めることができた点、最後に、(3)学習者がディスカッションや意見交換をしやすい環境をつくることで、要旨の理解を深めることができ、要旨を作成する技能に肯定的影響を与えた点である。(1)については、学習者に自らサンプルを探し、共有する機会を与えることで、学習者の興味や大学での学習内容に近いものを教材として参照することができ、学習者のニーズに応えることで、学習者から肯定的な反応を得ることができた。(2)について、他の学習者が提供した多様なサンプルと構造分析を参照することで、構成要素の順番や流れに関して多くのサンプルで共通している点や異なっている点についてなど、要旨の構造や特徴に対する理解が深まったことが、学習者のオンライン上でのコメントや事後アンケートにて明らかになった。(3)について、オンライン上での他の学習者のコメントや意見が要旨の理解につながったと回答した学習者が圧倒的に多く（回答者 19 人中 18 人)、オンラインでのディスカッションが学習者の理解を促進する可能性が高いことが明らかになった。クラス内の対面でのディスカッションにおいても概ね肯定的な反応があったが、インタビューにて、性格的な要因のため、学習者が対面のディスカ

ッションと比較した際にオンライン上でのディスカッションの取り組みやすさや発言量の機会均等の可能性に言及したことから、オンライン上での匿名によるディスカッションが内向的な学習者などを含めた多様な学習者にとって取り組みやすく、多様な学習者に比較的平等な発言の機会を与える点で、多様な個人のニーズに応えることができる可能性が示唆された。

【発表に対する反応・意見】

学習者が教材作成の過程に関わる点については概ね肯定的な意見が多く、新規性と独創性を認められた。また、今後の展望についての質問もあり、同教材の今後の展開や他の指導環境での応用などの可能性について興味を示す反応もあった。教師として自身の教育的文脈において使用する可能性を検討する声もあり、文脈によりどういった調整が必要であるか、どういった応用が可能かという議論もあった。提示した内容について、自身の教指導環境においては学習者のレベルについて適切ではない可能性があるとの声もあったが、発表者の指導環境においても、学術論文に関しては経験の浅い学習者であることを明らかにし、指導を可能にするために必要な学習者のレベルについて検討した。タスク自体の詳細について興味を示した参加者もおり、参加者の指導環境の現状について知ることができ、多様な指導環境における使用を検討する上で有用な情報を得ることができた。TBLT 国際学会の主催者の一人から、教材自体について好ましい反応を得られたが、要旨の構造分析の指導について、参照した文献についての詳細をポスターにおいても明示することを提案された。今回の発表においては、指導実践について、学生の反応を中心とした実践の詳細を重視していたため、指導の基盤となる理論や枠組みについての情報が不足していたため、その点が改善すべき項目として明らかになった。

【今後の展望】

本研究は、学習者が教材開発に参与するという点で従来の教材とは異なる新規性、独創性がある。また、学術目的の英語指導の課題である専門分野や興味の異なる学習者の指導において、各学習者のニーズに応えることが可能である。また、副教材・補助教材としての使用の可能性も考慮していることから、多様な教育現場における貢献が可能である。今後は、本教材の学部生を対象とする英語ライティング授業での利用を通して、アカデミック・ライティング技能の育成に寄与したい。